

令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 白銀 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

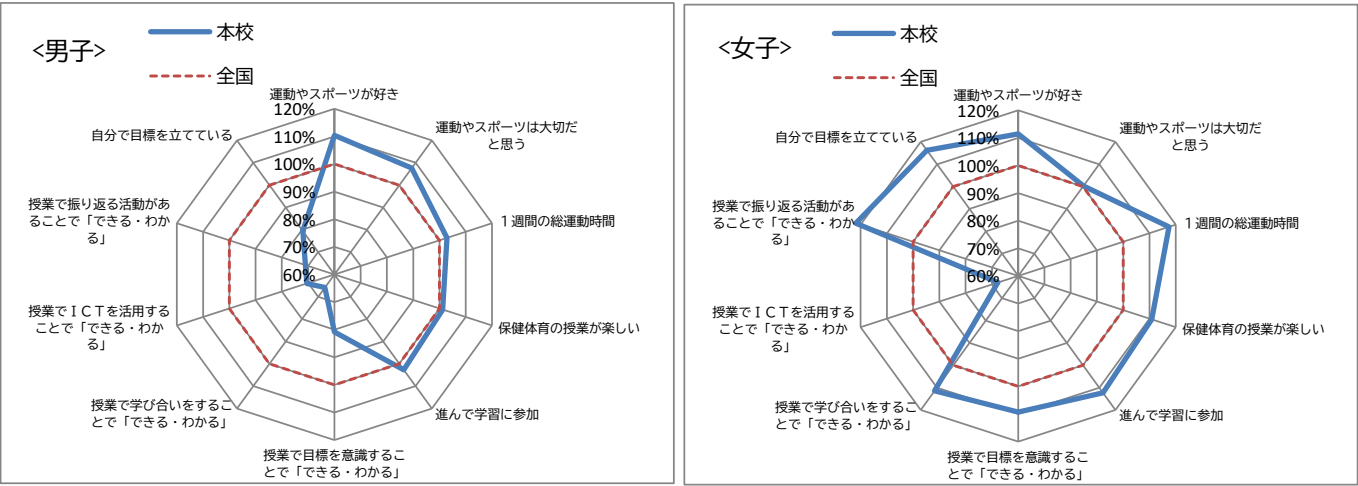
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	28.95	25.94	44.47	51.51	410.69	78.98	7.99	197.18	20.57	41.86
本市	29.93	26.34	45.51	52.15	463.01	81.17	7.88	201.59	20.38	43.31
本校全国平均以上の種目	◎	◎				◎			◎	◎

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.18	21.56	46.47	45.65	309.02	50.67	8.96	166.32	12.40	47.37
本市	23.47	21.97	46.62	46.51	330.19	52.35	8.85	171.43	11.75	48.44
本校全国平均以上の種目	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

○「運動が好き」、「運動は大切」という質問に対して、男女ともに、肯定的な回答をした割合がいずれも全国のポイントを上回っていた。生徒主体の授業を展開できていることや保健分野での意識の醸成が本結果に繋がったと考える。

○●「保健体育の授業は楽しい」とい質問に対して、男女ともに肯定的な回答をした割合がいずれも全国ポイントを上回っていたが、「授業でのICTの活用をして、できたり、わかったりする」という質問に対しては、全国・本市ポイントより下回っていた。授業は、楽しいが、ICTというツールが効果的に活用できていないと考える。

●「朝食を食べますか」という質問に対して、「毎日食べる」と回答した生徒が男子は全国・北九州市のポイントを下回っており、食事習慣が体力、健康、身体作りの基盤となっていることへの理解が深まっていないことも考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○ティームティーチングでの授業を行い、習熟度別やグルーピングを工夫することで、て生徒の「わかる・できる」に繋げていくよう取り組んでいる。

○運動量の確保、課題解決学習(分析活動)2つを柱として、主体的で対話的な深い学びを実践するよう取り組んでいる。中心とした授業展開を行っている。※調査結果を受け、今後も効果的なICT活用を研究し、実践していく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

○今後も「運動が好き」と感じる生徒を育成するために、主体的で対話的な授業を展開していく。

※本調査結果を、本校区小学校と共有・分析を行い、校区としての取組に繋げていく。